

そばに置きたい



今回紹介するのは沖縄のガラス工場が作った一品です。本土復帰前の沖縄ではガラスの原料を手に入れるのが難しかったそうです。そこで奥原硝子製造所（那覇市）が目をつけたのが、米軍が捨てたコーラやビールの瓶。それを砕いて再生しコップなどを作っていました。

ただ、再生ガラスは洗浄を入念にする必要があります。出来上がった製品も分厚くて重いものになります。復帰後はガラスの原料が入ってくるようになり、再生ガラスを使う工場は少なくなりました。

今回紹介する「ペリカンピッチャー」は、その再生ガラスで作られています。イタリヤにあったものを参考に作ら

再生ガラスのうるおい



ペリカンピッチャー 高さ19センチ。750ccほど入る。税抜き4千円。問い合わせはシルタ合同会社（0946・25・1270）。那覇市伝統工芸館（那覇市牧志3の2の10）でも購入できる。 外山亮一撮影

れました。倉敷民芸館（岡山県）の初代館長だった外村吉之介さんがこれを見いだして、日本でも作れないかと思ったのですが、魅力的な物ができなかったそうです。ずいぶん時間が経ってから私どものピッチャーを知り、再生ガラスで作れないかと奥原硝子に持ち込みました。

リサイクルしたガラスを使っているというのが現代にも合うのではないのでしょうか。私も使ってから気づいたので、口がとがっているのですが、ピッチャーの中に入れた氷がひっかかって落ちてこない。この季節、冷たい水を飲むのに持ってこいです。

（手仕事フオーラム代表

久野恵一）